

言語学専修

授業科目	講義題目	単位	担当教員氏名	開講 semester	開講曜日・講時	平成30年度以前入学者 読替先授業科目
言語学概論Ⅰ	言語学入門(基礎)	2	内藤 真帆	3	前期 木曜日 2講時	
言語学概論Ⅱ	言語学入門(運用)	2	木山 幸子	4	後期 木曜日 2講時	
言語学基礎講読Ⅰ	言語学への招待	2	小泉 政利	3	前期 金曜日 1講時	
言語学基礎講読Ⅱ	言語認知脳科学への招待	2	小泉 政利	4	後期 金曜日 1講時	
言語学基礎演習Ⅰ	言語のパラメトリックデータ分析	2	木山 幸子	3	前期 火曜日 2講時	
言語学基礎演習Ⅱ	言語のカテゴリカルデータ分析	2	木山 幸子	4	後期 火曜日 2講時	
音声学Ⅰ	音声学概説・調音音声学	2	内藤 真帆	3	前期 水曜日 3講時	
音声学Ⅱ	音響音声学・聴覚音声学	2	内藤 真帆	4	後期 水曜日 3講時	
言語学各論Ⅰ	外国語教育実証研究法	2	加藤 万紀子	5	前期 金曜日 2講時	
言語学各論Ⅱ	音韻論概説Ⅰ	2	那須川 訓也	5	前期 火曜日 2講時	
記述言語学各論	フィールド言語学の実践と理論	2	内藤 真帆	5	前期 水曜日 4講時	
理論言語学各論	統語論入門	2	小泉 政利	5	前期 木曜日 1講時	
実験言語学各論	コーパスを活用した定量的言語研究法	2	木山 幸子	5	前期 木曜日 2講時	
言語交流学各論(学習・言語心理学)	学習・言語心理学の基礎	2	木山 幸子	5	前期 水曜日 2講時	
言語学論文演習Ⅰ	言語学研究法Ⅰ	2	小泉 政利, 木山 幸子, 内藤 真帆, 加藤 万紀子, 熊 可欣	5	前期 金曜日 3講時	
言語学論文演習Ⅱ	言語学研究法Ⅱ	2	小泉 政利, 木山 幸子, 内藤 真帆, 加藤 万紀子, 熊 可欣	6	後期 金曜日 3講時	
言語学演習Ⅰ	言語テストと評価	2	加藤 万紀子	6	後期 金曜日 2講時	
言語学演習Ⅱ	音韻論概説Ⅱ	2	那須川 訓也	6	後期 火曜日 2講時	
言語学演習Ⅲ	言語研究のための実験プログラム作成	2	熊 可欣	5	前期 月曜日 3講時	
記述言語学演習	未知の言語の調査と分析	2	内藤 真帆	6	後期 水曜日 4講時	
理論言語学演習	言語と思考	2	小泉 政利	6	後期 木曜日 1講時	

言語学専修

授業科目	講義題目	単位	担当教員氏名	開講 semester	開講曜日・講時	平成30年度以前入学 者 読替先授業科目
実験言語学演習	コーパスを活用した定 量的言語研究法	2	木山 幸子	6	後期 水曜日 2講時	

科目名：言語学概論 I /

曜日・講時：前期 木曜日 2 講時

セメスター：3 単位数：2

担当教員：内藤 真帆

コード：LB34202, 科目ナンバリング：LHM-LIN202J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：言語学入門（基礎）
2. Course Title (授業題目)：Introduction to Linguistics (foundation)
3. 授業の目的と概要：現代言語学の研究目標，研究対象，分析方法，基礎的概念などについて学びます。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：We will study the purpose, research objects, analytical methods, and basic concepts of modern linguistics.
5. 学修の到達目標：(1) 現代言語学の研究目標と研究対象を理解する。
(2) 言語学の基礎的な概念を理解する。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：(1) To understand the purpose and research objects of modern linguistics
(2) To understand the basic concepts of linguistics.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
 1. ガイダンス・言語と言語学
 2. 音声学 1：子音
 3. 音声学 2：母音
 4. 音韻論 1：音素
 5. 音韻論 2：音節
 6. 音韻論 3：韻律
 7. 形態論 1：形態素
 8. 形態論 2：接辞
 9. 形態論 3：語形成
 10. 統語論 1：統語構造
 11. 統語論 2：統語分析
 12. 統語論 3：統語類型
 13. 意味論 1：命題、モダリティ、ヴォイス
 14. 意味論 2：テンス、アスペクト
 15. まとめと試験
8. 成績評価方法：
期末試験 70%、発表 30%
9. 教科書および参考書：
適宜、資料の配布および参考書等の紹介を行います。
10. 授業時間外学習：毎週、事前に示された内容の予習および講義の復習をして下さい。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicatesthe practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：

科目名：言語学概論Ⅱ／

曜日・講時：後期 木曜日 2講時

セメスター：4 単位数：2

担当教員：木山 幸子

コード：LB44202, 科目ナンバリング：LHM-LIN203J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：言語学入門（運用）

2. Course Title (授業題目)：Introduction to pragmatics

3. 授業の目的と概要：ことばは、自身の内的な動機に応じて、様々な状況で、様々な相手と、様々な目的で用いられます。「語用論」は、ことばの意味が状況や対人関係に応じてどのように変わるかを分析する学問です。本科目では、語用論的に見て動きのある身近な言語現象を取り上げながら、これまでに発展してきた語用論の理論の概要を理解し、それらの理論を実証的に検証した主要な先行研究の要点を把握します。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：According to our inner motivations, language is used for various purposes with various others in various situations. The study of pragmatics concerns the processes where a linguistic expression can have many different meanings depending on the context, situation, and interpersonal relationship. This course surveys some familiar language phenomena in terms of pragmatics, through which students understand core theories of pragmatics and the major empirical findings which examined those theories.

5. 学修の到達目標：身近な言語現象を語用論の視点から独自に分析的に考えられるようになる。また、実際の言語使用は使用者の特性（個人間の差および個人内の変化）に大きく左右されるものであることへの理解と受容の態度を持つ。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：Upon completion of this course, each student should have an analytic perspective of pragmatics about language phenomena. Students are also expected to be aware of, and open-minded about the diversity of language uses, which are highly dependent upon individual differences and changes (within and between individuals).

7. 授業の内容・方法と進捗予定：

以下の話題を取り上げる予定である。

- (1) あいさつ：対人関係構築の端緒を開く
- (2) 呼称：人をどう呼ぶか？呼ばないか？
- (3) あいづち：促しか？さえぎりか？
- (4) 敬語の古今：通時的变化をたどる
- (5) 敬語の東西：共時的变化をたどる
- (6) 間接的発話行為：なぜはっきり言わないの？
- (7) ことばと感情：話し手の気持ちが現れる言語マーカー
- (8) 子どものことば：発達における共同注意の役割
- (9) ことばの性差：遺伝的影響？環境的影響？
- (10) 母語と外国語：その習得過程の違い
- (11) ことばと加齢：衰える機能、保たれる機能、向上する機能
- (12) ことばの障害：語用論的処理を中心に

8. 成績評価方法：

毎回授業の最後に課す小課題（50%）、最終筆記試験（50%）

9. 教科書および参考書：

指定しない。参考文献は授業中随時紹介する。

10. 授業時間外学習：毎回とりあげるテーマに関連の深い文献を紹介するので、それを読むこと。また、授業でとりあげた話題に照らして、日常的に使われていることばの機能を考え直してみる。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：

本授業は、前期に開講される「言語学概論Ⅰ」とは独立している（前期の授業を受講していなくても差し支えない）。本授業では、出席を重視する。

科目名：言語学基礎講読 I /

曜日・講時：前期 金曜日 1 講時

セメスター：3 単位数：2

担当教員：小泉 政利

コード：LB35102, 科目ナンバリング：LHM-LIN207J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：言語学への招待
2. Course Title (授業題目)：Invitation to linguistics
3. 授業の目的と概要：英語で書かれた言語学の入門書の講読を通じて、言語学の基礎を身につけます。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：Students will learn the basics of linguistics by reading an introductory textbook on linguistics written in English.
5. 学修の到達目標：英語で書かれた言語学の文献が読めるようになること。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：By the end of this semester, students should be able to read linguistic literature written in English.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
 - 1 Guidance
 - 2 Why study linguistics
 - 3 How English has changed over the centuries
 - 4 How words are made
 - 5 How words mean
 - 6 How phrases are formed
 - 7 How sentences are formed
 - 8 How sentences mean
 - 9 How to communicate with other people
 - 10 The sounds of language
 - 11 Regional varieties
 - 12 Language in Society
 - 13 How language is acquired
 - 14 How a second language is acquired
 - 15 Review and exam
8. 成績評価方法：

概ね以下の基準で総合的に評価する。

 - ・発表：40%
 - ・宿題：40%
 - ・平常点：20%
9. 教科書および参考書：

教科書
Kegeyama, Taro et al. First Steps in English Linguistics. 2nd Edition. Kuroshio Publisher.
10. 授業時間外学習：自ら主体的に計画と目標を立て、自律的に準備学習に取り組んで下さい。
Students are strongly expected to voluntarily develop a plan and goals and to undertake preparatory learning.
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicatesthe practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：

科目名：言語学基礎講読Ⅱ／

曜日・講時：後期 金曜日 1 講時

semester：4 単位数：2

担当教員：小泉 政利

コード：LB45102, 科目ナンバリング：LHM-LIN208J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：言語認知脳科学への招待
2. Course Title (授業題目)：Invitation to cognitive neuroscience of language
3. 授業の目的と概要：英語で書かれた入門書の講読を通じて、言語認知脳科学の基礎を身につけます。
4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：Students will learn the basics of cognitive neuroscience of language by reading an introductory textbook written in English.
5. 学修の到達目標：英語で書かれた言語認知脳科学の文献が読めるようになること。
6. Learning Goals (学修の到達目標)：By the end of this semester, students should be able to read literature of cognitive neuroscience of language written in English.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
 - 1 Guidance
 - 2 Introduction
 - 3 The tool box
 - 4 Sounds in the brain
 - 5 A neural code for speech
 - 6 Activating words
 - 7 Representing meaning
 - 8 Structure and prediction
 - 9 Composing sentences
 - 10 Building dependencies
 - 11 Wrapping up
 - 12 Syntactic structure
 - 13 Information structure
 - 14 Interaction
 - 15 Review and exam
8. 成績評価方法：

概ね以下の基準で総合的に評価する。

 - ・発表：40%
 - ・課題：40%
 - ・平常点：20%
9. 教科書および参考書：

教科書

Brennan, Jonathan R. (2022) Language and the Brain: A Slim Guide to Neurolinguistics. Oxford University Press.
ISBN-10 : 0198814763
ISBN-13 : 978-0198814764
10. 授業時間外学習：自ら主体的に計画と目標を立て、自律的に準備学習に取り組んで下さい。
Students are strongly expected to voluntarily develop a plan and goals and to undertake preparatory learning.
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicatesthe practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：

科目名：言語学基礎演習Ⅰ／

曜日・講時：前期 火曜日 2講時

セメスター：3 単位数：2

担当教員：木山 幸子

コード：LB32205, 科目ナンバリング：LHM-LIN209J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：言語のパラメトリックデータ分析

2. Course Title (授業題目)：Parametric data analysis of language

3. 授業の目的と概要：本科目では、言語研究に必要なデータ分析の実習を行います。言語使用に関する共通データについて、統計ソフトウェアRを使いながら主要な分析方法を体験してもらいます。とくに今回は、連続量の平均や分散に基づくパラメトリックデータの分析を扱います

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：This is a practical course to cover a range of statistical analyses required for studies of language. Students will learn how to use R statistical software packages for major methods using various data sets regarding language use. Particularly, the course covers parametric data analyses based on means and variance.

5. 学修の到達目標：言語研究に必要な基本的な統計分析手法の要点を、とくにパラメトリックデータの側面について把握する。また、自身が扱う言語データについて、統計ソフトウェアを使って適切に分析できる素地を身につける。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：Upon completion of this course, students will have an essential understanding of basic statistical analysis, especially focusing on parametric data used in language studies. Students are expected to have basic abilities to conduct the appropriate statistical analysis of the language data to answer their own research questions.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

以下の話題を取り上げる予定である。

- (1) 変数、記述統計、統計的検定、推測
- (2) 相関分析
- (3) t 検定
- (4) 分散分析
- (5) 回帰分析
- (6) 共分散分析
- (7) 線形混合モデリング

8. 成績評価方法：

実習 (50%)、毎回授業の最後に課すワークシート (30%)、期末テスト (20%)

9. 教科書および参考書：

指定しない。参考文献は授業中随時紹介する。

10. 授業時間外学習：実習の内容を確認する宿題を課すことがある。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：

科目名：言語学基礎演習Ⅱ／

曜日・講時：後期 火曜日 2講時

セメスター：4 単位数：2

担当教員：木山 幸子

コード：LB42205, 科目ナンバリング：LHM-LIN210J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：言語のカテゴリカルデータ分析

2. Course Title (授業題目) : Categorical data analysis of language

3. 授業の目的と概要：本科目では、言語研究に必要な統計的データ分析の実習を行います。言語使用に関する色々なデータについて、統計ソフトウェアRを使いながら主要な分析方法を体験してもらいます。とくに今期は、カテゴリカルデータ（ある基準によって分類された離散データ）の分析を扱います。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要) : This is a practical course to cover a range of statistical analyses required for studies of language. Students will learn how to use R statistical software packages for major methods using various data sets regarding language use. Particularly, the course covers categorical data analyses.

5. 学修の到達目標：言語研究で用いられる基本的な統計分析手法の要点を、とくにカテゴリカルデータの側面について把握し、自身が扱う言語データについて研究課題に応じて適切な分析法を応用できる素地を身につける。

6. Learning Goals(学修の到達目標) : Upon completion of this course, students will have an essential understanding of basic statistical analysis, especially focusing on categorical data used in language studies. Students are expected to have basic abilities to conduct the appropriate statistical analysis of the language data to answer their own research questions.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

以下の話題を取り上げる予定である。

- (1) 記述統計、統計的検定、統計的推測
- (2) カイ二乗検定
- (3) 残差分析
- (4) 評定者間信頼性分析
- (5) クラスタ分析
- (6) 判別分析
- (7) 決定木分析
- (8) ロジスティック線形混合モデリング

8. 成績評価方法：

実習（授業および宿題 50%）、毎回授業の最後に課すワークシート（30%）、期末テスト（20%）

9. 教科書および参考書：

指定しない。参考文献は授業中随時紹介する。

10. 授業時間外学習：実習の内容を確認する宿題を課すことがある。

11. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practical business》

12. その他：

科目名：音声学Ⅰ / Phonetics I

曜日・講時：前期 水曜日 3講時

Semester：3 単位数：2

担当教員：内藤 真帆

コード：LB33303, 科目ナンバリング：LHM-LIN211J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：音声学概説・調音音声学

2. Course Title (授業題目)：Phonetics: Overview and Articulatory Phonetics

3. 授業の目的と概要：音声産出のメカニズムと各音声器官の働きを把握したうえで、世界の言語音を対象に、「聞き取り・国際音声記号 (IPA) を用いた書き取り・発音」の3点を実践的に身につけます。音声と書記法の違いを理解するほか、同化・異化、強勢など、聞き取った音声をもとに分析や考察も行います。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：In this course, students will firstly learn about the function of the vocal tract within speech production and the airstream mechanism, they will then practice their listening skills, IPA phonetic transcription, and the pronunciation of a range of sounds found in languages from around the globe.

5. 学修の到達目標：・世界の言語音の調音を理解し、聞き取り・書き取り・発音ができるようになる。

6. Learning Goals (学修の到達目標)：By the end of this course, students will be able to explain the airstream mechanisms and be able to articulate and transcribe the sounds of spoken world languages.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 音声学とは一音声産出・音の物理的性質・音の知覚
2. 音声器官と音声産出のメカニズム
3. 調音位置と調音方法
4. 国際音声記号
5. 子音1. 破裂音・鼻音・ふるえ音
6. 子音2. はじき音・摩擦音・接近音
7. 補助記号を用いた書き取り
8. 世界の言語の聞き取り・書き取り・発音練習1
9. 母音の性質と特徴
10. 単母音と二重母音
11. 世界の言語の聞き取り・書き取り・発音練習2
12. 世界の言語の聞き取り・書き取り・発音練習3
13. 音素と音声特徴
14. 拍と音節・強勢とピッチ・同化と異化
15. プロソディー

8. 成績評価方法：

定期試験 (70%)、発表 (30%)

9. 教科書および参考書：

適宜、資料を配布します。

(参考書) J. C. Catford, A Practical Introduction to Phonetics, Oxford University Press (2002)

10. 授業時間外学習：授業後には調音位置・調音方法を復習したうえで発音の復習・練習を繰り返して行ってください。

11. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practical business》

12. その他：

音声学Ⅱ (後期開講) の受講希望者は、本講義 (音声学Ⅰ・前期開講) を受講して下さい。

科目名：音声学Ⅱ／Phonetics II

曜日・講時：後期 水曜日 3講時

セメスター：4 単位数：2

担当教員：内藤 真帆

コード：LB43304, 科目ナンバリング：LHM-LIN212J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：音響音声学・聴覚音声学

2. Course Title (授業題目)：Acoustic and Auditory Phonetics

3. 授業の目的と概要：言語音の物理的性質を実験的観察によって理解すると同時に、音を知覚するメカニズムを学びます。実験的観察ではパソコンを利用して、母音・子音の録音と分析実習を行い、調音と音声性質の相関性を科学的に分析する力を身につけます。さらにその発展的応用についても検討します。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：This course provides students with the opportunity to study various topics concerning acoustic phonetics and speech perception. Students will analyze data and take note of articulatory-acoustic relations. We will, furthermore, discuss how to design a novel research application related to the results of that analysis.

5. 学修の到達目標：・音声の物理的側面を理解し、科学的に分析する手法を身につける。

・分析により、連続した音声から個々の音の特徴を導くことができる。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：By the end of this course, students will be able to describe both acoustic phonetic features of various sounds, as well as the theory of speech perception. They will also be able to identify and understand correlation between articulation data and acoustic phonetic data.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 音響音声学・聴覚音声学とは
2. 聴覚器官と音の知覚
3. 純音と複合音
4. 波長・周期・周波数
5. 音源・共鳴・音源フィルター理論
6. パソコンを用いた音響分析の方法
7. 子音の調音と特徴
8. 共鳴音の波形とスペクトログラム
9. 阻害音の波形とスペクトログラム
10. 有声音と無声音
11. 母音の調音と特徴
12. 母音のフォルマント周波数
13. 狭帯域分析・広帯域分析
14. 聴覚現象
15. 音声性質・音の知覚にもとづく発展研究

8. 成績評価方法：

定期試験(70%)、発表(30%)

9. 教科書および参考書：

適宜、資料を配布します。

(参考書) Keith Johnson, Acoustic and Auditory Phonetics, Wiley-Blackwell (2011)

10. 授業時間外学習：波形を分析するためには調音音声学の知識が必要になるため、予習と復習を行ってください。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：

音声学Ⅰの知識を前提とした内容になりますので、受講希望者は事前に音声学Ⅰ(前期開講)を受講してください。

講義には毎回パソコンを持参してください。

科目名：言語学各論Ⅰ／

曜日・講時：前期 金曜日 2講時

Semester：5 単位数：2

担当教員：加藤 万紀子

コード：LB55203, 科目ナンバリング：LHM-LIN317J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：外国語教育実証研究法

2. Course Title (授業題目)：Empirical Research Methods in Foreign Language Education

3. 授業の目的と概要：外国語教育における実証研究は、研究デザインから分析結果の報告に至るまで科学的な手法に沿って行われます。そして実証研究論文では、実験方法、実験参加者、実験手続きなどの詳細を研究結果とともに詳しく報告する必要があります。この授業では、外国語教員を目指す学生だけでなく言語学分野における実証研究を行うことを予定している学生を対象に、実証研究を行う上での基本的な知識を習得した上で、研究デザインの作成、データの分析、結果の報告のし方を学びます。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：Empirical research in foreign language education follows scientific methods, from research design to data collection, to reporting the results of the analysis. When producing an empirical research paper, the researcher should elaborate the rationale, the methodology including instrumentation, sampling, data collection, and data analysis. In this course, students who plan to conduct empirical research in the field of linguistics as well as students aiming to become foreign language teachers will learn how to design the research, analyze data, and report the results after acquiring basic knowledge for conducting empirical research.

5. 学修の到達目標：1) 研究課題を設定することができる。

2) 研究デザインを作成することができる。

3) 研究課題を解決するためのデータ収集と分析方法を決めることができる。

4) 適切な方法で分析結果を報告することができる

6. Learning Goals(学修の到達目標)：Students will be able to...

1) choose a research topic and form research question(s).

2) design their own research.

3) decide the ways of data collection and data analysis for research.

4) report the results of the analyses.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

第1回目：オリエンテーション

第2回目：研究テーマの見つけ方、研究課題の設定の仕方

第3回目：実証研究の種類と研究デザイン・アプローチの種類

第4回目：データ収集の方法

第5回目：質的研究の紹介とデータ収集・分析の方法（1）

第6回目：質的研究の紹介とデータ収集・分析の方法（2）

第7回目：質的研究の紹介とデータ収集・分析の方法（3）

第8回目：質的研究の紹介とデータ収集・分析の方法（4）

第9回目：量的研究の紹介とデータ収集・分析の方法（1）

第10回目：量的研究の紹介とデータ収集・分析の方法（2）

第11回目：量的研究の紹介とデータ収集・分析の方法（3）

第12回目：量的研究の紹介とデータ収集・分析の方法（4）

第13回目：量的研究の紹介とデータ収集・分析の方法（5）

第14回目：研究デザイン作成の方法

第15回目：分析結果の報告方法

8. 成績評価方法：

・小テスト（30％）2回目から15回目の授業で毎回行います。

・リアクションペーパー（20％）毎回の授業で行います。

・授業参加（20％）授業でのディスカッションや練習に積極的に参加して下さい。

・研究デザイン（30％）詳細な研究デザインを作成し、学期の最後に提出をしてもらいます。

9. 教科書および参考書：

授業で資料を配布します。(Materials will be distributed in the class.)

推薦図書は授業で紹介します。(Recommended books will be introduced in the class.)

10. 授業時間外学習：授業で配布する資料や文献を読み、自分なりの考えを発表できるようにする。興味のある研究テーマを見つける。

(Read the materials and literature to be distributed in the class, and present students' thoughts. Find a research theme they are interested in.)

11. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

1 2. その他：

科目名：言語学各論Ⅱ／

曜日・講時：前期 火曜日 2講時

セメスター：5 単位数：2

担当教員：那須川 訓也

コード：LB52203, 科目ナンバリング：LHM-LIN318J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：音韻論概説Ⅰ

2. Course Title (授業題目)：Introduction to phonology I

3. 授業の目的と概要：この授業を通して、英語と日本語の母語話者が示す分節現象で観察される規則に焦点を当て、音声、言語（文法）構造を構成している単位としてどのように機能しているかを学ぶ。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：In this course, students will study how speech sounds function as units of linguistic (grammatical) structure, focusing on segmental patterns in native-speaker spoken English and Japanese.

5. 学修の到達目標：この授業を通して、諸言語話者の (i) 母語の音体系, (ii) 音現象を制御する規則, (iii) 文法理論における音韻知識の位置づけ、を説明できるようになる。

6. Learning Goals (学修の到達目標)：After completing this course, students will be able to explain (i) what language speakers know about their native sound system, (ii) some of the rules controlling sound patterns in a particular language, and (iii) where phonological knowledge belongs in a general theory of grammar.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

授業計画は以下の通りである。毎回の進度は受講者の様子によって若干変わります。

第1回：音韻論とは何か。

第2回：音韻論と音声学

第3回：規則体系としての言語

第4回：言語機能

第5回：中核文法と周辺体系

第6回：音素論

第7回：音素と異音

第8回：対立分布と相補分布

第9回：異音規則

第10回：音配列論

第11回：音韻範疇

第12回：母音素性

第13回：母音弱化

第14回：子音素性

第15回：子音軟音化

毎回授業の冒頭で、前回の授業内容を復習する。

8. 成績評価方法：

レポート課題×2 (60%), 確認テスト×1 (40%)

9. 教科書および参考書：

教科書：小泉 政利 (編) 2016. 『ここから始まる言語学プラス統計分析』 共立出版。

10. 授業時間外学習：毎回、授業で扱った教科書の個所と例を復習すること。そして不明な部分があれば、教員に尋ねること。

[After each class students are expected to review the material and examples studied in class, and to ask the instructor for guidance/clarification where necessary.]

11. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practical business》

12. その他：

科目名：記述言語学各論／

曜日・講時：前期 水曜日 4 講時

セメスター：5 単位数：2

担当教員：内藤 真帆

コード：LB53402, 科目ナンバリング：LHM-LIN319J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：フィールド言語学の実践と理論

2. Course Title (授業題目)：Field Methods and Linguistic Analysis

3. 授業の目的と概要：フィールド言語調査の基本的な流れを、言語選定・調査地の探し方から調査票作成、調査・分析まで実践的に学びます。異なる言語集団の接触により誕生したピジン・クレオールを対象とし、基本的な音声・形態・文構造・意味の分析によりその言語特徴を明らかにするほか、音声と書記法・言語と国家・言語政策・言語接触・威信・借用などの社会言語学の観点からも分析・考察します。併せて、文化・歴史と関連させた言語人類学の観点からも考察します。なお比較・対照のために複数の言語データを扱います。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：This course introduces the fundamentals of research methodologies in Linguistics, covering everything from preparing the research project to them conducting it and analyzing the results. Students will research pidgin and creole, and analyze the data according to the perspective and methods of various approaches, such as descriptive linguistics, socio-linguistics, and linguistic anthropology.

5. 学修の到達目標：・ピジン・クレオールの言語特徴を分析により導く。
・言語調査の方法を身につける。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：By the end of this course, students will have an understanding of the key procedural elements of field research in Linguistics, and they will also be able to explain the characteristics of pidgin and creole.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. フィールド言語学・記述言語学とは
2. 調査地・調査言語の選定方法・調査許可
3. 調査方法・調査準備・調査票 1 の作成
4. ピジン・クレオールの背景
5. ビスマラ語の聞き取り
6. 現地語の聞き取り
7. 3 言語の音声・音韻・形態の分析と比較
8. 仮説の設定と調査票 2 の作成
9. 3 言語の句構造・文構造の比較
10. 名詞・動詞のパラダイム、意味体系の比較
11. 仮説の設定と調査手法
12. 3 言語の比較から導くピジン・クレオールの特徴
13. 音声と書記法、言語と国家、威信、借用
14. 言語接触のプロセスと言語変化
15. 社会言語学・言語人類学的分析と発展研究

8. 成績評価方法：

定期試験 (70%)、発表 (30%)

9. 教科書および参考書：

適宜、資料を配布します。

10. 授業時間外学習：授業後、扱ったデータや調べた文献をもとにして、さらにどのような調査や発展的分析・考察が可能であるかを考えてください。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：

科目名：理論言語学各論／

曜日・講時：前期 木曜日 1 講時

セメスター：5 単位数：2

担当教員：小泉 政利

コード：LB54101, 科目ナンバリング：LHM-LIN320J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：統語論入門

2. Course Title (授業題目) : Introduction to Syntax

3. 授業の目的と概要：この授業では、まず統語論の基本的な概念と原理を学び、その後さまざまな統語現象の分析事例に触れます。また、口頭発表および自律的な学習習慣のスキルの獲得も目指します。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要) : This course deals with the basic concepts and principles of syntax as well as case studies of various syntactic phenomena. It also enhances the development of students' skill in making oral presentation and self-regulated learning.

5. 学修の到達目標：統語論の基本的な概念と原理について自分の言葉で説明できるようになること。

身近な言語現象について自分なりに分析しようとする姿勢を身につけること。

6. Learning Goals (学修の到達目標) : By the end of the course, students should be able to describe in their own words the basic concepts and principles of syntax, and develop an attitude of trying to analyze familiar linguistic phenomena in their own way.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス
2. ことばの科学的研究方法
3. ことばの獲得の不思議、普遍文法
4. 語彙範疇と機能範疇、統語構造
5. X バー理論、文の構造を再考する
6. 意味役割、能動と受動
7. 数量詞と代名詞、コントロールと上昇
8. 非対格仮説、動詞句内主語仮説
9. 主要部移動、Wh 疑問詞と題目の移動
10. 補文の構造、補文の分布
11. 文構造の獲得、文の構造と格関係
12. 名詞句修飾節における格の交替現象、動詞と格の獲得
13. 項省略、名詞句の省略
14. 省略の獲得、2 種類のスクランブリング
15. 移動と語順の制約、否定辞と数量詞の作用域

8. 成績評価方法：

概ね以下の基準で総合的に評価する。

- ・発表：50%
- ・宿題：50%

9. 教科書および参考書：

教科書

岸本秀樹『ベーシック生成文法』ひつじ書房

10. 授業時間外学習：自ら主体的に計画と目標を立て、自律的に準備学習に取り組んで下さい。

Students are strongly expected to voluntarily develop a plan and goals and to undertake preparatory learning.

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：

科目名：実験言語学各論／

曜日・講時：前期 木曜日 2講時

セメスター：5 単位数：2

担当教員：木山 幸子

コード：LB54203, 科目ナンバリング：LHM-LIN321J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：コーパスを活用した定量的言語研究法
2. Course Title (授業題目)：Quantitative research methods of language utilizing corpora
3. 授業の目的と概要：テキストの集積であるコーパスは、言語学やその関連領域の研究に様々な形で活かされています。本授業では、まず前半でコーパスを利用した研究の可能性を把握した上で、定量的研究をする上での基本的事項や処理・分析法を学びます。後半では、コーパスを利用した実際の定量的研究事例を深く理解し、受講生自身のことばに関する関心事をコーパスによって確かめる作業を行います。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：Corpora, collections of language resources, are utilized in many different ways in linguistics or the related disciplines. In this course, students will first overview the possibilities of corpus studies, and then learn how to extract, process, and analyzed the data. In the latter half of the course, they will explore actual quantitative studies using corpora in depth, and experience the process of corpus linguistics to examine their own interests about language.
5. 学修の到達目標：コーパス言語学の歴史と可能性を理解する。実際にコーパス研究を体験し、言語の科学的研究の方法論を習得し、学位論文研究を主体的におこなうための素地を身に着ける。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：Students are expected to understand the history and possibilities of corpus linguistics. They will experience the process of corpus research, with which they learn the scientific research methodology of language. This experience will be beneficial for students to complete their theses independently.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
以下の内容を予定している：
 - (1) ガイダンス (教員)
 - (2) 多様な言語資源、コーパスの概要① (教員)
 - (3) 多様な言語資源、コーパスの概要② (教員)
 - (4) コーパスを活用した研究紹介 (ゲスト①)
 - (5) コーパスを活用した研究紹介 (ゲスト②)
 - (6) コーパスを活用した研究紹介 (教員)
 - (7) コーパスデータの検索法 (教員)
 - (8) コーパスデータの処理法 (教員)
 - (9) コーパスデータの分析法 (教員)
 - (10) コーパス言語学の論文講読① (受講生)
 - (11) コーパス言語学の論文講読② (受講生)
 - (12) コーパスを使った研究アイデアの討議① (受講生)
 - (13) コーパスを使った研究アイデアの討議② (受講生)
 - (14) コーパスを使った研究アイデアの討議③ (受講生)
 - (15) 最終成果プレゼンテーション (受講生)
8. 成績評価方法：
期末レポート (50%)、発表分担 (30%)、毎回授業の最後に課すワークシート (20%) によって評価する。
9. 教科書および参考書：
指定しない。講読する文献を配布する。
10. 授業時間外学習：受講者全員に発表を担当してもらうので、自分の分担作業は責任をもって着実に行うこと (その自信がない場合は受講しないこと)。
 11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
 12. その他：

科目名：言語交流学各論（学習・言語心理学）／ Interlinguistics (Special Lecture)

曜日・講時：前期 水曜日 2 講時

セメスター：5 単位数：2

担当教員：木山 幸子

コード：LB53203, 科目ナンバリング：LHM-LIN322J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：学習・言語心理学の基礎

2. Course Title (授業題目)：Basics of learning psychology and psycholinguistics

3. 授業の目的と概要：学習心理学および言語心理学は、いずれも人間の行動様式の変容過程について、実験によって確かめようとする科学的研究分野です。本科目では、学習・言語心理学の要点を理解するために、受講生自身に文献を理解してまとめ、他の受講生と共有してもらいます。一つの知見を得るために対してなぜそのような方法論がとられているのかを考えながら、科学的方法論の趣旨を理解することを目指します。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：The study of learning psychology and psycholinguistics involves scientific investigations utilizing experiments to examine processes in which human behaviors change. To have a general understanding of these disciplines, students are required to summarize a paper to share with other students. They will consider connections between purposes and procedures to understand essential components of scientific research.

5. 学修の到達目標：学習・言語心理学の考え方や方法論の概要を理解する。当該領域の文献の要点を過不足なくまとめて専門外の他者にもわかりやすく伝えられるようになる。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：Upon completing this course, students should have a general understanding of the concepts and methodology of learning psychology and psycholinguistics. They will improve effective presentation skills using their everyday vocabulary to share major points of research papers in this field with those without the knowledge.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

以下の通りに進行する予定である。

- (1) ガイダンス (教員)
- (2) 学習心理学の概要 (教員)
- (3) 言語心理学の概要 (教員)
- (4) 生得的行動 (受講生)
- (5) レスポンデント (古典的) 条件づけ (受講生)
- (6) オペラント (道具的) 条件づけ (受講生)
- (7) 問題解決 (受講生)
- (8) 技能学習 (受講生)
- (9) 社会的学習 (受講生)
- (10) 音声・音韻の発達 (受講生)
- (11) 語彙の発達 (受講生)
- (12) 文法の発達 (受講生)
- (13) 談話・会話処理の発達 (受講生)
- (14) 言語に関わる障害 (受講生)
- (15) まとめ (教員)

8. 成績評価方法：

期末レポート (50%)、発表分担 (30%)、毎回授業の最後に課すワークシート (20%)

9. 教科書および参考書：

教科書：木山幸子他 (2022) 『学習・言語心理学 (ライブラリ心理学の杜 7)』サイエンス社

10. 授業時間外学習：受講者全員に発表を担当してもらうので、その準備を他のメンバーとよく協力して進め、自分の分担作業は責任をもって行うこと (その自信がない場合は受講しないこと)。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：

科目名：言語学論文演習Ⅰ

曜日・講時：前期 金曜日 3講時

セメスター：5 単位数：2

担当教員：小泉 政利、木山 幸子、内藤 真帆、加藤 万紀子、熊 可欣

コード：LB55305, 科目ナンバリング：LHM-LIN326J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：言語学研究法Ⅰ

2. Course Title (授業題目)：Methods of linguistic researchⅠ

3. 授業の目的と概要：授業は、参加者の分担による発表および質疑応答の形式で行う。

3年生は論文紹介の発表を行う。自分の関心により論文を選択し、論文の目的、方法、結果、考察についての的確にハンドアウトにまとめて紹介する。その際、テーマの発見、調査や実験の実施、論の展開と提示、統計処理、参考文献の利用と提示など、論文を書くために必要な事項について「批判的な姿勢」から学びとる。これにより、卒業論文作成のための知識ならびに方法を身につけることを目的とする。

4年生は卒業論文の研究計画を発表する。テーマの選択や先行研究の動向について

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：In this course, students will deliver an oral presentation, followed by a discussion among the participants.

1. An oral presentation should adequately cover the aim, data, method, results, discussion, and conclusion of the article.

2. The presenter is supposed to deepen their understanding of methods of linguistic studies and presentation on the bases of the reactions from the audience.

3. Participants should seek to gain acquaintance with various fields of linguistic studies and to participate in the discussion in order to help the presenter to improve their presentation.

5. 学修の到達目標：言語現象に対する様々なアプローチを理解しながら、自らの関心対象を絞り、卒業論文のテーマを決定する。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：Students will be able to narrow down their interest in language and eventually find a topic of their thesis.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス

2. 論文1の紹介・研究計画発表、質疑応答

3. 論文2の紹介・研究計画発表、質疑応答

4. 論文3の紹介・研究計画発表、質疑応答

5. 論文4の紹介・研究計画発表、質疑応答

6. 論文5の紹介・研究計画発表、質疑応答

7. 論文6の紹介・研究計画発表、質疑応答

8. 論文7の紹介・研究計画発表、質疑応答

9. 論文8の紹介・研究計画発表、質疑応答

10. 論文9の紹介・研究計画発表、質疑応答

11. 論文10の紹介・研究計画発表、質疑応答

12. 論文11の紹介・研究計画発表、質疑応答

13. 論文12の紹介・研究計画発表、質疑応答

14. 論文13の紹介・研究計画発表、質疑応答

15. 全体のまとめ

8. 成績評価方法：

授業中の議論への参加 50%、発表 50%

9. 教科書および参考書：

教科書は使用しない。

10. 授業時間外学習：発表のためのハンドアウトは、事前に準備し、発表の週の月曜日までに配布すること。

11. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practical business》

12. その他：

科目名：言語学論文演習Ⅱ／

曜日・講時：後期 金曜日 3講時

セメスター：6 単位数：2

担当教員：小泉 政利. 木山 幸子. 内藤 真帆. 加藤 万紀子. 熊 可欣

コード：LB65304, 科目ナンバリング：LHM-LIN327J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：言語学研究法 II

2. Course Title (授業題目)：Methods of linguistic research II

3. 授業の目的と概要： 3年生は前期に引き続き論文紹介を行いそれを卒業論文にどう繋げるかを発表するか、卒業論文の構想を発表する。これにより、卒業論文作成のための知識ならびに方法をさらに深く身につけることを目的とする。

4年生は卒業論文の進捗状況を中間発表する。テーマの選択や先行研究のまとめだけでなく、データ収集・調査・実験等の実施方法、分析手法、予想される結果と意義、およびその時点までに得られた暫定的な結果とその解釈などについて、できるだけ具体的に発表する。

その日の発表者以外の参加者は、他者の発表を聴き、ディスカッション

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：In this course third year students will deliver an oral presentation of a journal article of their own choice, while fourth year students an interim report of their thesis. Oral presentations will be followed by a discussion among the participants.

1. An oral presentation should adequately cover the aim, data, method, results, discussion and conclusion of the article/thesis.

2. Participants should seek to gain acquaintance with various fields of linguistic studies and to participate in the discussion in order to help the presenter to improve their presentation.

5. 学修の到達目標：よりよい卒業論文を作成するための方法を身につける。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：Students will develop skills to write better theses.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス

2. 論文1の紹介発表、質疑応答。卒業論文中間発表

3. 論文2の紹介発表、質疑応答。卒業論文中間発表

4. 論文3の紹介発表、質疑応答。卒業論文中間発表

5. 論文4の紹介発表、質疑応答。卒業論文中間発表

6. 論文5の紹介発表、質疑応答

7. 論文6の紹介発表、質疑応答

8. 論文7の紹介発表、質疑応答

9. 論文8の紹介発表、質疑応答

10. 論文9の紹介発表、質疑応答

11. 論文10の紹介発表、質疑応答

12. 論文11の紹介発表、質疑応答

13. 論文12の紹介発表、質疑応答

14. 論文13の紹介発表、質疑応答

15. 全体のまとめ

8. 成績評価方法：

授業への参加 50%、発表 50%

9. 教科書および参考書：

教科書は使用しない。

10. 授業時間外学習：発表のためのハンドアウトを事前に準備し、配布する。

11. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practical business》

12. その他：

科目名：言語学演習 I / Linguistics (Seminar) I

曜日・講時：後期 金曜日 2 講時

セメスター：6 単位数：2

担当教員：加藤 万紀子

コード：LB65206, 科目ナンバリング：LHM-LIN328J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：言語テストと評価

2. Course Title (授業題目) : Language Testing and Assessment

3. 授業の目的と概要：言語教育におけるテストは、言語学習者の熟達度や到達度を測定することだけではなく、学習と教育を強化するための手段として大きな役割を担っています。この授業では、主に英語教育に焦点を置き、言語テストと評価の基本的理論を学び、主に 2 つの実践を行います。1 つ目は、言語教育におけるテストの役割、言語能力、テストの有用性を理解した上でテスト作成を行い、テストの妥当性と実用性を測定する方法を学びます。2 つ目は、テストの評価方法、テスト結果の分析方法・活用方法を学びます。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要) : Tests in language education measure not only proficiency and achievement of language learners but also play a major role of strengthening learning and education. In this class, focusing mainly on English education, students will learn the basic theory of language testing and assessment, and practice two main things as below: First, they will develop a test with carefully considering the role of the test in Foreign language education, language use, and test usefulness, then learn how to measure the validity and practicality of a test. Second, students will learn how to assess the test and analyze/utilize the test results.

5. 学修の到達目標：1) 言語テストが備えるべき要件を満たしたテストが作成できる。

2) 言語テストの妥当性を測定することができる。

3) 言語テストの実用性を測定することができる。

4) テスト結果を分析することができる。

5) テストが学習者の学習方法や教師の教え方に及ぼす影響を測定することができる。

6. Learning Goals (学修の到達目標) : Students will be able to...

1) develop tests which meet the requirements of language tests.

2) measure the validity of language tests.

3) measure the practicality of language tests.

4) analyze test results.

5) measure the effect of the test on learners' learning method and teachers' teaching method.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

第 1 回目：オリエンテーション/言語テスト・言語評価研究とは

第 2 回目：社会における言語テストの役割と波及効果

第 3 回目：言語テストの種類

第 4 回目：言語能力とは (1)

第 5 回目：言語能力とは (2)

第 6 回目：言語テストの有用性 (1)

第 7 回目：言語テストの有用性 (2)

第 8 回目：妥当性理論と妥当性検証 (1)

第 9 回目：妥当性理論と妥当性検証 (2)

第 10 回目：評価者訓練とテスト採点者の信頼性検証

第 11 回目：リーディングテストの作成と評価 (1)

第 12 回目：リーディングテストの作成と評価 (2)

第 13 回目：ライティングテストの作成と評価 (1)

第 14 回目：ライティングテストの作成と評価 (2)

第 15 回目：技能統合型テストと技能混合型テスト

8. 成績評価方法：

・小テスト (20 %) 毎回行います。

・リアクションペーパー (20 %) 毎回の授業で行います。

・作成テスト 1 (リーディング) (20 %)

・作成テスト 2 (ライティング) (20%)

・作成テスト 3 (技能統合型または技能混合型) (20%)

9. 教科書および参考書：

授業で資料を配布します。(Materials will be distributed in the class.)

推薦図書は授業で紹介いたします。(Recommended books will be introduced in the class.)

10. 授業時間外学習：授業で配布する資料や文献を読み、自分なりの考えを発表できるようにする。

(After each lesson, read the material distributed and prepare to present your thoughts.)

11. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

1 2. その他：

科目名：言語学演習Ⅱ／Linguistics (Seminar)II

曜日・講時：後期 火曜日 2講時

セメスター：6 単位数：2

担当教員：那須川 訓也

コード：LB62207, 科目ナンバリング：LHM-LIN329J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：音韻論概説Ⅱ

2. Course Title (授業題目)：Introduction to phonology II

3. 授業の目的と概要：この授業を通して、英語と日本語の母語話者が示す超分節現象で観察される規則に焦点を当て、音声、言語（文法）構造を構成している単位としてどのように機能しているかを学ぶ。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：In this course, students will study how speech sounds function as units of linguistic (grammatical) structure, focusing on suprasegmental patterns in native-speaker spoken English and Japanese.

5. 学修の到達目標：この授業を通して、諸言語話者の (i) 母語の音節構造, (ii) 音現象を制御する規則, (iii) 文法理論における音韻知識の位置づけ、を説明できるようになる。

6. Learning Goals (学修の到達目標)：After completing this course, students will be able to explain (i) what language speakers know about their native syllable structure, (ii) some of the rules controlling sound patterns in a particular language, and (iii) where phonological knowledge belongs in a general theory of grammar.

7. 授業の内容・方法と進捗予定：

授業計画は以下の通りである。毎回の進捗は受講者の様子によって若干変わります。

第1回：音韻論と音声学

第2回：英語の音配列論

第3回：きこえ度と音節

第4回：英語の音節構造

第5回：オンセット

第6回：ライムと核

第7回：コーダ

第8回：日本語の音配列論

第9回：日本語の音節構造とモーラ

第10回：音節類型論

第11回：強勢規則

第12回：最適性理論 (OT)

第13回：接辞化と音韻規則

第14回：複合語形成と音韻規則

第15回：借用語と音韻規則

毎回授業の冒頭で、前回の授業内容を復習する。

8. 成績評価方法：

レポート課題×2 (60%), 確認テスト×1 (40%)

9. 教科書および参考書：

教科書：小泉 政利 (編) 2016. 『ここから始まる言語学プラス統計分析』 共立出版。

10. 授業時間外学習：毎回、授業で扱った教科書の箇所と例を復習すること。そして不明な部分があれば、教員に尋ねること。
[After each class students are expected to review the material and examples studied in class, and to ask the instructor for guidance/clarification where necessary.]

11. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practical business》

12. その他：

科目名：言語学演習Ⅲ／Linguistics (Seminar)Ⅲ

曜日・講時：前期 月曜日 3講時

セメスター：5 単位数：2

担当教員：熊 可欣

コード：LB51308, 科目ナンバリング：LHM-LIN330J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：言語研究のための実験プログラム作成
2. Course Title (授業題目)：Introduction to creating experiments for linguistic research
3. 授業の目的と概要：本講義では、心理言語学の実験やオンライン調査を作成する時によく使われる PsyToolkit およびソフトウェア E-prime の使い方を説明する。毎回基礎事項を説明した上で、学生にプログラムの作成を体験してもらう。
4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：In this course, students will learn how to use PsyToolkit and E-prime to create experiments and web-based tests. Each class will begin with a brief introduction, and then students will work with me on some psycholinguistic experiments.
5. 学修の到達目標：PsyToolkit および E-prime の使い方を習得し、自分の研究で使う実験プログラム・オンライン調査を作成できるようになる。
6. Learning Goals (学修の到達目標)：Students will be able to build experiments and web-based tests for their research using PsyToolkit and E-prime.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
以下の内容を取り上げる予定である。
第1回 ガイダンス
第2回 PsyToolkit 基本操作
第3回 PsyToolkit 基本操作
第4回 PsyToolkit によるオンライン調査の作成
第5回 E-prime 基本操作
第6回 E-prime 基本操作
第7回 E-prime によるプログラム作成 語彙性判断課題
第8回 E-prime によるプログラム作成 自己ペース読み課題
第9回 E-prime によるプログラム作成 命名課題
第10回 E-prime によるプログラム作成 音声提示による課題
第11回 E-prime による脳波実験用プログラムの作成
第12回 調査・実験プログラム自主作成
第13回 調査・実験プログラム自主作成
第14回 EEGLAB による脳波解析入門
第15回 EEGLAB による脳波解析入門
8. 成績評価方法：
授業参加(40%)、期末レポート(60%)
9. 教科書および参考書：
授業で資料を配布する。
[Materials will be distributed in the class.]
10. 授業時間外学習：講義内容を復習すること。
[Students are expected to review the materials after each class.]
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：

科目名：記述言語学演習／

曜日・講時：後期 水曜日 4 講時

セメスター：6 単位数：2

担当教員：内藤 真帆

コード：LB63402, 科目ナンバリング：LHM-LIN331J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：未知の言語の調査と分析
2. Course Title (授業題目)：Research, Analysis, and Description of Non-Researched Languages
3. 授業の目的と概要：未調査・未解明で文字を持たない消滅寸前の少数言語、このような世界の言語を対象に、音声から音韻、形態、文の構造まで網羅的に調査・分析する方法を実践的に身につけます。さらに解明したことを言語学上の記号と術語を用いて、専門的かつ体系的に記述する方法を学びます。
理論を用いても説明困難な言語現象をどのように分析・考察しうるか実際のデータを基に検討するほか、記述文法・辞書の作成に至るプロセスを体験し、消滅危機言語のアーカイブ化についても議論します。当講義では、話者 4 人の言語と話者 500 人の言語の一次データを扱います
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：This course will focus on endangered languages that have not yet been researched. Students will both analyze data and document them using descriptive linguistic methods. The course will also include discussion about how such languages might be archived.
5. 学修の到達目標：・未知の言語の調査・分析方法を理解する。
・導いた規則性や分析結果を、言語学の術語を用いて記述できるようになる。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：By the end of this course, students will be able to research, analyze and provide a linguistic description of an unknown, unresearched language.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
 1. 世界の言語状況、未知の言語・調査地の探し方
 2. 未知の言語へのアプローチ方法、調査媒介言語
 3. 調査言語・調査地の決定前に行う準備と許可申請
 4. 調査・分析・記述 1：音声の聞き取りと国際音声記号を用いた書き取り
 5. 調査・分析・記述 2：音素の設定と弁別の特徴
 6. 調査・分析・記述 3：形態音韻論的現象
 7. 調査・分析・記述 4：語形成のプロセスと音韻規則
 8. 調査・分析・記述 5：品詞分類と定義、文法範疇
 9. 調査・分析・記述 6：句・文の構造、文の必須要素
 10. 調査・分析・記述 7：結合価、移動、情報構造
 11. 調査・分析・記述 8：意味役割、意味体系、発話と意味
 12. 調査・分析・記述 9：共時的分析と通時的分析、言語変化
 13. 調査・分析・記述 10：説明困難な言語現象の分析と考察
 14. 調査方法と得られるデータの違い、データの記録方法
 15. 消滅危機言語の記述、保存と継承、アーカイブ化
8. 成績評価方法：
定期試験 (70%)、発表 (30%)
9. 教科書および参考書：
適宜、資料を配布します。
10. 授業時間外学習：授業後、扱ったデータや調べた文献をもとにして、さらにどのような調査や発展的分析・考察が可能であるかを考えてください。
 11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
 12. その他：

科目名：理論言語学演習／

曜日・講時：後期 木曜日 1 講時

semester：6 単位数：2

担当教員：小泉 政利

コード：LB64101, 科目ナンバリング：LHM-LIN332J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：言語と思考
2. Course Title (授業題目) : Language and thought
3. 授業の目的と概要：この授業の目的は、言語と思考に関する研究事例の批判的検討を通じて、心理言語学の基礎を学ぶことである。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要) : The purpose of this class is to learn the basics of psycholinguistics through a critical review of research cases on language and thought.
5. 学修の到達目標：下記について自分なりに説明できるようになることを目標とする。
 - a) 文の理解と産出の心内処理メカニズム
 - b) 言語と思考の関係
6. Learning Goals(学修の到達目標) : By the end of the course, students should acquire a basic understanding of
 - a) mental processes underlying sentence comprehension and production, and
 - b) the interaction of language and thought.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
 - 1 Guidance
 - 2 Encoding interference in verb-initial languages
 - 3 Cross-cultural comparison of lexical partitioning of color space
 - 4 Word orders, gestures, and a view of the world from OS languages
 - 5 Factors affecting the choice of word order in Kaqchikel: Evidence from discourse saliency
 - 6 Sentence comprehension in Central Alaskan Yup'ik: The effects of case marking, agreement, and word order
 - 7 Producing long-distance dependencies in English and Japanese
 - 8 Case and word order in children's comprehension of wh-questions: A cross-linguistic study
 - 9 Cross-linguistic investigation of the acquisition of disjunction
 - 10 Effects of annual quantity of second language input on pronunciation in EFL Environments
 - 11 Asymmetric effects of sub-lexical orthographic/phonological similarities on L1-Chinese and L2-Japanese visual word recognition
 - 12 Cortical neural activities related to processing Japanese scrambled sentences by Japanese L2 Learners: An fMRI Study
 - 13 Spoken term detection from utterances of minority languages
 - 14 Human language processing in comparative computational psycholinguistics
 - 15 Review & exam
8. 成績評価方法：

概ね以下の基準で総合的に評価する。

 - ・発表：40%
 - ・課題：40%
 - ・議論への積極的な参加：20%
9. 教科書および参考書：

開講時に指示します。

They will be designated at the beginning of the course.
10. 授業時間外学習：自ら主体的に計画と目標を立て、自律的に準備学習に取り組んで下さい。

Students are strongly expected to voluntarily develop a plan and goals and to undertake preparatory learning.
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：

科目名：実験言語学演習／

曜日・講時：後期 水曜日 2講時

セメスター：6 単位数：2

担当教員：木山 幸子

コード：LB63208, 科目ナンバリング：LHM-LIN333J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：コーパスを活用した定量的言語研究法
2. Course Title (授業題目)：Quantitative research methods of language utilizing corpora
3. 授業の目的と概要：テキストの集積であるコーパスは、言語学やその関連領域の研究に様々な形で活かされています。本授業では、まず前半でコーパスを利用した研究の可能性を把握した上で、定量的研究をする上での基本的事項や処理・分析法を学びます。後半では、コーパスを利用した実際の定量的研究事例を深く理解し、受講生自身のことばに関する関心事をコーパスによって確かめる作業を行います。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：Corpora, collections of language resources, are utilized in many different ways in linguistics or the related disciplines. In this course, students will first overview the possibilities of corpus studies, and then learn how to extract, process, and analyzed the data. In the latter half of the course, they will explore actual quantitative studies using corpora in depth, and experience the process of corpus linguistics to examine their own interests about language.
5. 学修の到達目標：コーパス言語学の歴史と可能性を理解する。実際にコーパス研究を体験し、言語の科学的研究の方法論を習得し、学位論文研究を主体的におこなうための素地を身に着ける。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：Students are expected to understand the history and possibilities of corpus linguistics. They will experience the process of corpus research, with which they learn the scientific research methodology of language. This experience will be beneficial for students to complete their theses independently.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
以下の内容を予定している：
 - (1) ガイダンス (教員)
 - (2) 多様な言語資源、コーパスの概要① (教員)
 - (3) 多様な言語資源、コーパスの概要② (教員)
 - (4) コーパスを活用した研究紹介 (ゲスト①)
 - (5) コーパスを活用した研究紹介 (ゲスト②)
 - (6) コーパスを活用した研究紹介 (教員)
 - (7) コーパスデータの検索法 (教員)
 - (8) コーパスデータの処理法 (教員)
 - (9) コーパスデータの分析法 (教員)
 - (10) コーパス言語学の論文講読① (受講生)
 - (11) コーパス言語学の論文講読② (受講生)
 - (12) コーパスを使った研究アイデアの討議① (受講生)
 - (13) コーパスを使った研究アイデアの討議② (受講生)
 - (14) コーパスを使った研究アイデアの討議③ (受講生)
 - (15) 最終成果プレゼンテーション (受講生)
8. 成績評価方法：
期末レポート (50%)、発表分担 (30%)、毎回授業の最後に課すワークシート (20%) によって評価する。
9. 教科書および参考書：
指定しない。講読する文献を配布する。
10. 授業時間外学習：受講者全員に発表を担当してもらうので、自分の分担作業は責任をもって着実に行うこと (その自信がない場合は受講しないこと)。
 11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
 12. その他：